

育てよう

# 鏡野のよい子シリーズ



## 「字を書くということ」

字を書く機会が、生活の中で減っていく。仕事はパソコン、手紙はメール。今や当たり前と言えど時代の変化である。この原稿も当然、パソコンで書いている。

小学生の頃、書道の先生が私の実家の一室を教室に使ったこと、同じ小学校の生徒が何人も生徒として我が家に通うこととなった。

そういった経緯で特に魅力も感じない書道を、サッカークラブ活動の合間に習うこととなった。

熱心な生徒ではないので、手本に清書用紙を重ねて写したり、二度書きして仕上げたりして、いわば「適当に」習い事をこなしていたのである。

今思い返せば、私の習い事はこの書道教室のみであった。当時も様々な習い事があり（そろばん塾もあった。入塾すれば「ロケットペンシル」がもらえる特典付きで、同級生のほとんどが通っていた。）、いくつかの教室や塾に通う子どもも多かった。しかし、何かを習うというモチベーションが欠けていた私は、自宅で行われる書道教室がある火曜日以外は、ボールを蹴ったり、遊んだりして過ごしていた。

遊びの中には当時流行しはじめたTVゲームもあった。ただ、私は友達が熱中していた「ファミコン」ではなく、家庭用パソコンをねだり、手に入れた。TVゲームにも夢中だったが、ゲームをプログラムして作ることに明け暮れ、食事にも取らずに両親を呆れさせていたのだ。

つまり、小学生だった私は、書道といったものに全く興味が無く、パソコンべったりの昭和的現代っ子だったのである。

そんな私にも、書道教室の先生は、やさしく丁寧に指導して下さいました。人気があり、一時は十人から十五・六人が習いに来て、家の六畳の和室と八畳のリビングが小学生でいっぱいになっていた。私は「適当な」生徒だったが、先生は上達するための技や、心構えをきちんと教えて下さっていた。先生はただ、「なぜ上達したほうが良いのか」を教えてくれなかっただけである。

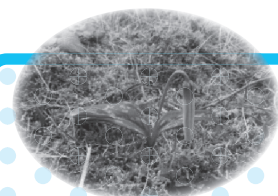
今、教壇に立つ私も、「なぜ、それが良いのか」を伝えることに逡巡する。私のこれまでの常識も、いずれは変化していく、そんな未来が見えるからだ。しかし、最近「なぜ」を無理に伝える必要はないと思いついて、なぜなら、パソコンに熱中していたからで、少年も、パソコンでの仕事に時々疲れ、「字を習いたい」と思うようになっていくからである。

思うに「字を書く」ということは「表現」である。パソコン・メールでは表せない思いを字に託すことができる。私は改めて「字を書く」ことに魅力を感じているのである。これからの「表現」はSNSなどに変化することが予想される。しかし、生活に「字を書く」ことが残るならば、それは素敵なことではないかと思う。

「かつて」のSNSべったりの令和的現代っ子が「字を習いたい」という未来を想像することも面白い。学びは何歳でも始めることができるのだから。

鏡野町生徒指導推進連絡協議会  
鏡野中学校 石原 靖弘

## のびのびひろば こんぴら山 だ~いすき♡



8年前に種をまいたカタクリの花。  
今年初めてつぼみがついたそうです。

ほいくえんみえた



とない!!



おいしい♡



あなはっけん!  
ふかいなあ



のこったのこった

戦前ここで相撲大会が開かれていた、  
と教えてもらい、早速やってみました。



じゃんけんぽん!  
ちよこれいと

富保育園の南東にある金毘羅山は、地域の方が登りやすくきれいに整備してくださっていて、子ども達が大好きな遊び場の一つです。春は山野草の花が咲き、秋はどんぐり、冬はフユイチゴがたくさん採れます。そして、頂上の物見台からは富東谷と富西谷が一望でき、鬼ごっこやかくれんぼをしたり、アスレチックのように走り回ったりすることもできます。登るたびに新たな発見がある金毘羅山に、今年もたくさん遊びに行く予定です。

(富保育園)